



一隅を照らそう
9月号

296号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

人生は丹精

住職 中島 有淳

以前、寺の掲示板に書きました。

女あり

二人行く

若きはうるわし

老いたるは

なお うるわし

—— ホイットマン

この短い詩からなんと美しい情景が浮かぶことでしょう。

どこにでもありそうな光景に、映画の一シーンを見る想いです。

若いということはそれだけでも美しい。ところがホイットマンは

「老いたるは なおうるわし」と言い切ります。私はこの詩が大

好きです。

この詩を教えてくださいました本の作者は、「丹精の美しさこそ 古さ

の値うち」とあり、人生においても丹精の大切さを説いています。

若い人のうるわしさと、老いた人間のうるわしとは決して同じ

ではないのです。

今年の「夏休み子供止観（坐禅）会」でのことです。

毎朝、坐禅を終えると私だけでなく参加している大人の方にも

代表して、一言子供達に向かつてお話をさせて頂いています。本年

の参加最高齢者は地元のAさんで、もう二十年以上毎年参加の常

連です。お話は

「自分は五年前に大きな病気（癌）を患いました。医者からは

△薬を投与しないとあと一年の命△といわれましたが、その薬は

大変苦しいと聞き、お断りしました。自分はずっと前から近く

のお寺に朝の鐘を打つのが日課となつて、今も続けています。も

う五年が過ぎていてもお陰さまでこうして元気になっています。自

分は「守られている」のを感じて感謝して毎日を過ごしています

……」と、穏やかに話して下さいました。子供達もその話を真剣

に聞いていました。

人は誰しも身体が病むときは必ず心も悩んでいます。しかし、

Aさんは「生命も身体も自分のものであつて自分のものでなく、

頂いたもの」と思うようになったでしょう。まさに毎日丹精さ

れているからこそ世界です。

現在は知識の教育は充分あります。しかし、心を伝える部分に

ついては欠けています。親切・まじめ・思いやりといった、実生

活の美点を若い世代に伝え残したいものです。

物質でなく身体で伝える想いは生活の知恵で生きる力です。長

年培った経験からの智慧は、生活感覚となり活力となり得ましよ

う。Aさんの「守られている」というのは、「背後の力」を信じ

ている証しです。大切なものは見えません。しかし、その恵みを

子供達に身をもってお話し下さった信念の姿に丹精を感じ、心

から感謝です。

存在するということは恩恵を受けているということです。これ

はまた、あらゆるものに対して自分が出来る恩恵を返してこそ、

自然の行為といえます。

人生の喜びはここにふつふつと生じることでしょう。

折りふしのはな

ヤブカラシ

初めて見た時には

かわいらしいお花！と

思つたのですが

実は つるがからみ

藪をも枯らす

ヤブカラシと知り

この頃では

つつじが いたまないよう

気をつけて

引き抜くようにしています（遊）



行事案内

○九月八日 午後二時

薬師如来大護摩供

○九月十二日 午後二時

智泉院法要日（於・日本橋茅場町）

○九月十五日（土）年一回

ぜんそく平癒祈禱

○九月十八日 午後二時

観音経読誦法要（於・神木観音堂）

○九月二十八日 午後二時

不動明王大護摩供

どなたさまも自由にご参詣下さい

* 毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時には一緒にどうぞ

修行時刻

1回目	10:00
2 "	11:30
3 "	14:00



先般、世界的な禅僧ティク・ナット・ハン師の
拠点地であるフランス「プラム・ヴィレージ」を
訪ね、他いくつかの国を巡る勝縁に恵まれました。
追ってご報告致します。（副住職 光信 記）

あとがき

○本年の戸津説法師は比叡山延暦寺一山五智院 佐々木光澄大僧
正。二十四日中日に会中御見舞の聴聞に随喜しました。この日は
『法華経』提婆達多品十二からの説法。十界互具の説明から、あ
る死刑囚の話に。縁に触れて改心され短歌を通してその心中の歌
を発表。死刑について声をつまらせての師の説法に一同聞き入り
ました。

○西日本豪雨災害への募金報告。天台宗一隅を照らす運動・地球
救援募金へ。金、六万九千三百六十七円。アールユス（仏教国際協
力ネットワーク）へ。金、一万四千四百二十一円を各々送金し、
寄託しました。ご協力有難うございました。

○境外仏堂の「神木観音堂」が新築（8/落成）から二十年。毎月十
八日には月例の『観音経』を十四時より読誦しています。ご参加
お待ちしております。

○裏山に墓所が数基。八月、関係する方々が集って通路が一段と
整備されてきました。感謝御礼申し上げます。

○九月はぜんそく平癒（9/15）とお彼岸です。生老病死の四苦は、
全てにつながっています。いま、こうして自分があることに少し
でも上手に感謝したいと思います。